



たてやま おらがんまつち

2018.02 No.37

南総祭礼研究会



宮城 県山形県 山形地区

関東大震災での海岸隆起と昭和五年の海軍基地埋め立てなどがあり宮城地区の地形は大きく変わりました。軍事施設の多い宮城地区では、館山海軍航空隊が太平洋戦争中に防空壕として建設した赤山地下壕跡や、航空機格納庫として作られた施設、宮城掩体壕跡などがあります。現在は三六〇世帯程からなる地域で、社務所には江戸時代からの宮城自治関係者一覧表や昭和の歴代役員の額などが飾られ、深い歴史を重んじ先人を敬う地域性を感じさせます。



宮城の浜で行われていた「宮城海苔」の養殖
(正面に見えるのは鷹の島:大正末から昭和初期)

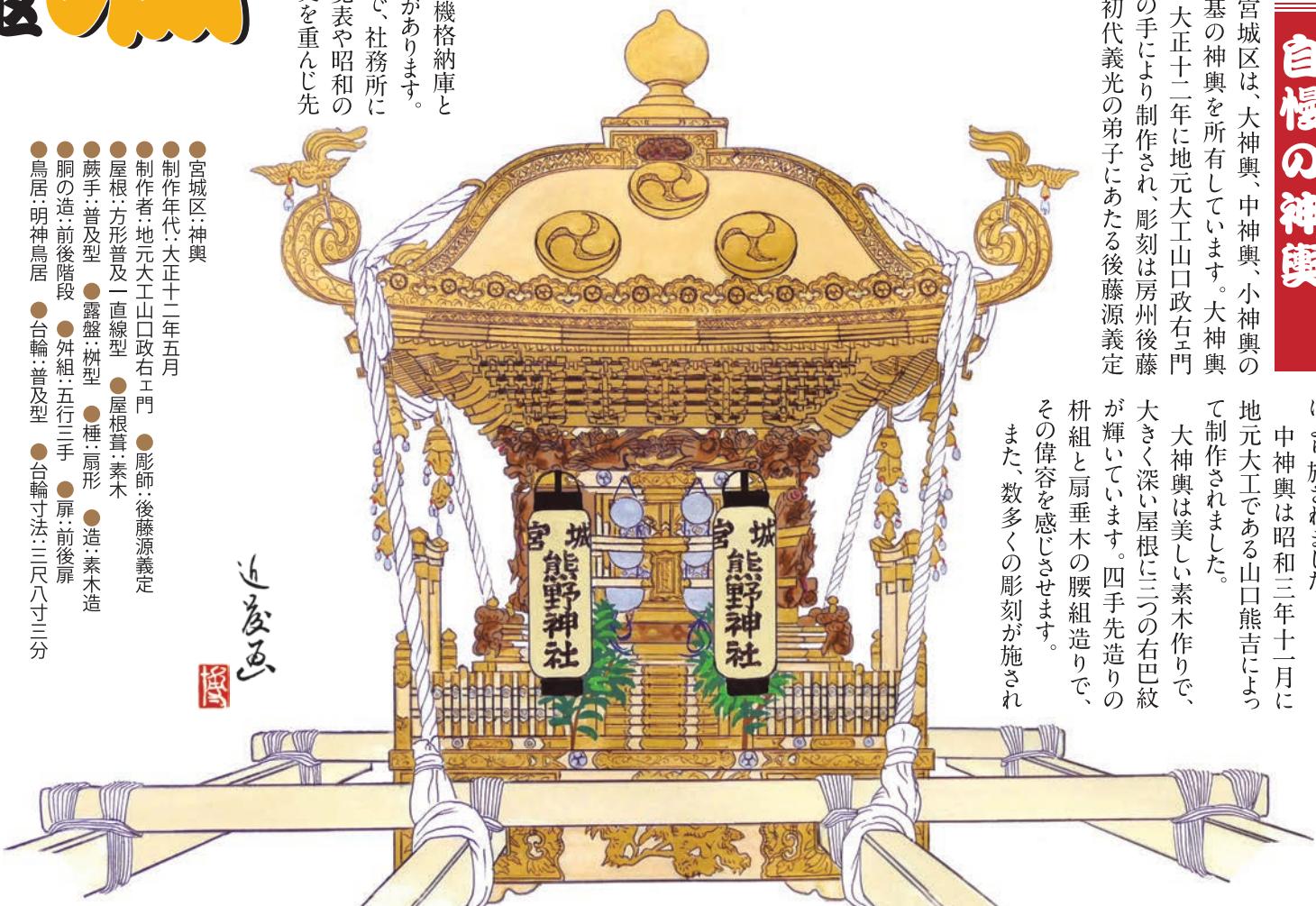
地域の紹介

宮城地区は、沼地区と笠名地区に隣接した地区で、丘陵よりの岡方と海岸よりの浜方の集落からなります。江戸から大正時代までは「宮城海苔」の大正時代までは「宮城海苔」の養殖が行われていました。

宮城区は、大神輿、中神輿、小神輿の三基の神輿を所有しています。大神輿は、大正十二年に地元大工山口政右門家の手により制作され、彫刻は房州後藤流初代義光の弟子にあたる後藤源義定

により施されました。
中神輿は昭和三年十一月に
地元大工である山口熊吉によつ
て制作されました。

大柿輿は美しい素木作りで
大きく深い屋根に三つの右巴紋
が輝いています。四手先造りの
枑組と扇垂木の腰組造りで、
その偉容を感じさせます。



美しい素木の屋根に映える扇垂木と腰組造り



厚みのある胴嵌め彫刻



後藤源義定による見事な彫刻

おり、分厚い胴羽目彫刻をはじめ、四方の堂柱には昇り龍、降り龍、子落としの獅子が細かく彫られており、木鼻には籠彫りを抱えた獅子、欄間には鶴や鳳凰などがある。これらは、狭い空間に施されています。また屋根上についている擬宝珠の台にも龍の彫物が回っています。

昭和五十七年と平成六年に大きな修理を行なながら、素木の美しさを保つために、毎年祭礼が終わるたびに拭き磨かれたその姿に、宮城区民の篤い思いが見える自慢の神輿です。